

サトリの
ココロ [月1連載]

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、
仏教に興味を持つ人が増えています。
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

日蓮宗大明寺住職
楠山泰道さん

第8回

私は元高校教師。以前は非行に走る子どもも多く、私もその更生に取り組みようになりました。「せっかくの未来がある若者を助けないければ」……その思いから、さまざまな問題を抱える青少年とその家族からの相談に応じてきました。そして世間を騒がせたオウム真理教の事件後、仏教者として信者の脱会への協力を求められ、その脱会活動に取り組みました。数多くのオウム信者と会い、脱会の手助けをしたのです。これを発端に、脱カルトの活動にも数多く取り組んできました。

母親が安心するような
ぐい子、が実は危険！

「カルト」と聞くと、みなさんは自分には関係のない話だと思いかもされません。しかし、決して特別なことではないのです。ひきこもり、自殺未遂、リストカット、麻薬……現代の若者が抱えるこれらのトラブルは、実はカルトとイコール。社会の中に自分の存在理由を見出せない若者たちは、夢や希望が持てなくなり、心を病んで生きることがイヤになります。病めば何かにすがるのは当たり前。救いを求めようとカルトに走るのは、むしろ正常な行為ともいえます。カルトに救いを求める者もいれば、ひきこもりやリストカットなどで自分を守ろうとする者もいる。世の中が病めば病むほど、こうした若者が増えていくのです。

今は昔のような非行はなくなり、また。だから今、トラブルを抱えるのは悪い子ではなく、むしろいい子。何事にも疑問を持たず、自分で考えることをしない現代の子どもたちです。素直ないい子は、お母さんから見ればホツとするかもしれません。でもそれは自分を出せないということ。言われるままに信じてしまうということ。カルトなどにも走りやすいということ。そうした子どもになっでしまう要因の一つは親。子育てを勘違いして、子どもを抱え込みすぎるのも問題なのです。

トラブルが生まれる前に
予防することが大切



街を見下ろす高台にある広く美しい境内。地域の活性化の場になれば、どの住職の願いから、コンサートが開かれることも。

わが子をカルトや自殺未遂などのトラブルから守るためには1つのポイントがあります。①子どものことを一番わかっているのは自分だと思わないこと。理解していると思うから本当の悩みが見えないし、子どもも話しくくなるのです。②子どもに疑問を持たせること。自分で考えることは自立への第一歩でもあります。③本当の宗教とは何かを学ぶこと。宗教を特別視してはいけません。④ファザーレス（父親不在）にしないこと。反抗期や自立期は特に父親の出番。社会に飛び立つ術を教えるのは父親の役目です。母子家庭の母親は父親の分もかんばろうとするかもしれません。でも一人では無理。周囲に父親にかわるサポート役を作っておくべきです。

親が意識を変えれば子どもも変わります。子どもにとっても家族にとっても再生となるのです。

子どもの自立のために 親自身が意識を変えて

くすやま・たいどう 1947年、神奈川県生まれ。立正大学仏教学部卒業。日蓮宗大明寺の住職を務める傍ら、社会福祉法人立正福祉会「青少年こころの相談室」室長として、不登校やひきこもり、自殺未遂、カルト入信トラブルなど、青少年の心の問題に取り組む。「青少年こころの相談室」http://www.daimyoji-n.or.jp/kokoro_sodansitu